

橘町の見どころ

まちの歴史シリーズ ②

橘町HP

<https://tachibana-net.jp>

歴史・史跡 クリック

発行：橘町まちづくり推進協議会
ふるさと部会
発行日：令和4年8月1日
責任者：前田 信俊
事務局：橘公民館 22-3884

弥生の銅矛と古墳時代の鍛冶が、
支配階級の存在を示す

たまえいせき 玉江遺跡 (上野)

●玉江遺跡は上野★①にあります。昭和23年
に中広形銅矛★②（写真）が見つかり弥生時代
頃の遺跡と考えられていましたが、その後の
調査で、祭りのために埋められたものと考え
られています。県の重要文化財です。

●3次にわたる発掘調査★③の結果、古墳時代
★④の竪穴住居★⑤や掘立柱建物跡★⑥が数多く
見つかり、古墳時代以降の集落遺跡★⑦である
ことが分かりました。

●特に珍しいものとして、古墳時代の鍛冶に
関連する★⑧遺構は、当時の支配者階級にか
かわる重要なものです。上野から小野原にか
けて、後の長島荘★⑨に繋がる支配層がいた
と考えられます。

●また、平安時代前期まで遡る幅6mもある
道路遺構★⑩が見つっています。この地域
は、その後も中世（鎌倉・室町時代）まで集
落として維持された場所です。

（以上は発掘調査報告書から）

★①玉江遺跡の場所

玉江は上野地区の中でも一番西側になります。



★印番号の解説

★②中広形銅矛

銅矛は、弥生時代後期に、地域を支配する人の力を表
すシンボルでした。（写真は橘町史跡めぐりより転載）



★③3次に渡る調査箇所

右図色分け

横断道工事 赤
河川改修工事 黄
圃場整備工事 緑



★④古墳時代とは

古墳時代は3世紀
中頃～7世紀始め
頃までを言います。

弥生時代末期に北九州から近畿にかけて存在した各
地の勢力が統一されていきます。古墳時代前期に、
畿内を本拠地とするヤマト王権が成立したと考えら
れていますが、まだ過程ははっきりしていません。

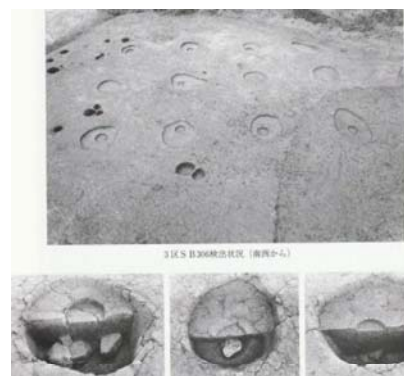
★⑤竪穴住居跡）下写真左

古墳時代までは、土を掘った「竪穴住居」に人々は
住んでいました。（発掘調査報告書から）

★⑥掘立柱建物跡 下写真右

土を掘り木製の柱を立てて平屋を造る建築物は、既に
弥生時代には始まっていました。吉野ヶ里では高樓な
どが見つっています。橘町でもみやこ遺跡などで見
つかりました。

（発掘調査報告書から）



★⑦集落遺跡とは？

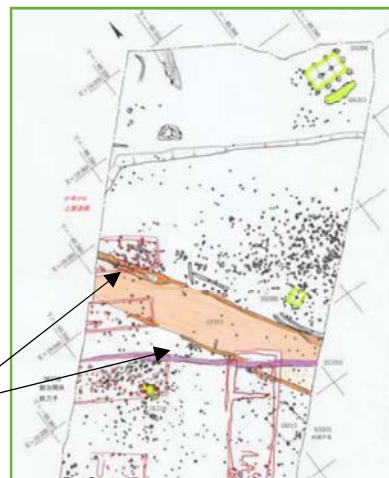
佐賀県に「周知の遺跡」として登録された遺跡は、墳墓、古墳、城館跡、社寺跡、窯跡、集落遺跡、散布地などに区分されます。集落遺跡とは、人々の生活の場を表す区分です。

★⑨長島の庄

肥前国杵島郡（現在の武雄市）付近にあった荘園。成立は明らかではありません。「長島」の名の文献上の初見は天暦5年(951)の四至実検状の中に、長島大路という路名で出てきます。「長島庄」の初見は医王寺歡喜寺如来像の銘に承安2年(1172)年の年号があります。武雄社文書により遅くとも仁安3年(1168)には既に成立していたと考えられています。（武雄市史より）

★⑩平安前期の道路遺構

道幅は、内法で6m～7.6mもありました。奈良時代に、国が造った官道は大路(オウジ)・中路(チュウジ)・小路(ショウジ)に区分されていました。大路は12メートルもあり、現在の4車線道路の大きさです。玉江の道路は官道ではありませんが、その半分のサイズですから地方の小路と比べても、歩行道としては相当広いですね。右遺構図の赤く塗った所が道の跡です。（両サイドみぞ跡）（発掘調査報告書より）



★⑧鉄の歴史と鍛冶

今日の う・ん・ち・く

弥生時代の始まり頃、水田稲作技術をはじめさまざまな文物が日本にもたらされますが、鉄器も青銅器とともにこのときに伝わったとされています。日本における製鉄の歴史は、次のように考えられています。

(1) 弥生時代のはじめ（紀元前3世紀ころ）

朝鮮半島からごく少量の鉄器を輸入して使用。道具の主力は石器。

(2) 弥生時代中期～後期（紀元前後から紀元後3世紀ころ）

加熱してやわらかくした鉄素材を曲げたり、たたいたりして形を整える「原始的鍛冶」が行われるようになりました。

(3) 古墳時代に入ると、韃（ふいご）と羽口（はぐち）を使って

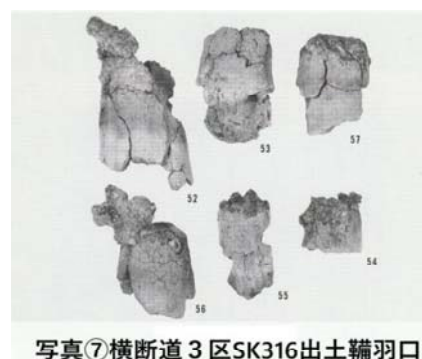
炉に風を送り、熱した鉄を叩く鍛冶が行われます。

(4) 古墳時代後期（6世紀頃）

高温の炉を使った製錬（砂鉄などから鉄を生産）が行われます。

製鉄技術の確立時期は、弥生時代の後半説と古墳時代説があります。

（古代史の解説書や福岡市・藤井寺市の紹介文などを参考にまとめました。）



写真⑦横断道3区SK316出土韃羽口

玉江遺跡の韃羽口の写真（古墳時代）

今回ご紹介した遺跡は『古墳時代と平安時代』のものでした

時代区分	旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代		奈良時代		平安時代	
新・ふるさと歴史散歩記載項目	打製石器使用 氷河期、大陸と陸続き。	1万年前に気候温暖、島国に。土器を作り煮炊きや貯蔵が可能に。	紀元前3C～3C。水稲栽培と弥生土器。環濠集落と小国家形成。大陸との交流も盛ん	3C半ば～700頃。古墳を造った時代。大和を中心とする統一国家（大和王権）の形成	任那日本府の滅亡と白村江の戦い 後期は飛鳥時代へ	律令体制。710～794 国史編纂と風土記。武雄が杵島の郡として記載される。	条里制が敷かれ、土地の開墾と荘園化が始まる。 国分寺・尼寺を建立、奈良麻呂の乱	藤原氏の権力増大、摂関政治を行う。荘園を貴族や寺社が支配、武士団を形成。	宮中警備・地方の治安に武士登用、支配の一旦を担う。平治の乱で清盛が朝廷の実権
主な市内遺跡 赤書は橘町	草場・おつぼ山第1水門・南檜崎遺跡。若木町小路遺跡、中野の黒曜石、柏岳ヌカイト	市場・下貝原・釈迦寺遺跡等の遺物。市内200力以上。阿舍利・檜原遺跡（山内）	小橋・みやこ遺跡の環濠。潮見川流域・釈迦寺等遺跡、市内100力以上。東宮裾遺跡	町内遺跡の鏡、銅剣。 玉江遺跡 武雄平野を取り囲む山の周辺で300基以上	玉島・潮見古墳、おつぼ山神籬石、東福寺・矢ノ浦・大蛇古の前方後円墳。線刻古墳も	肥前風土記と歌垣山、井手橋・林副（墨書土器） 武雄温泉 広福寺仏像	ドウザマ墓地立石と官道 小野原遺跡（条里制跡） 向野須恵器窯跡（北方）郡衙施設	長嶋庄成立 、橘町条里制、庄の前遺跡、おつぼ山経塚、武雄・黒尾神社、各地の経塚	長嶋庄は1170代に蓮華王院領 佐賀県最古の文書（実検状） 歡喜寺薬師如来像と後藤氏